

## 米国 夏果実の生産見通し(モモ、甘果アウトウ、アンズ、ブドウ)

米国農務省経済調査局 2024年7月25日

これは、米国農務省経済調査局の「[果実及びナッツ類の見通し 2024年7月](#)」の非柑橘類果実の項(一部省略)を訳したものです。文中の「トン」はショートトン(米トン)であり、1ショートトン=約907.2kg、1ポンド=約0.4536kg、1エーカー=0.4046ヘクタールです。

### 非柑橘類果実の見通し

#### <モモ> カリフォルニア州の2024年の生産予測は上向き

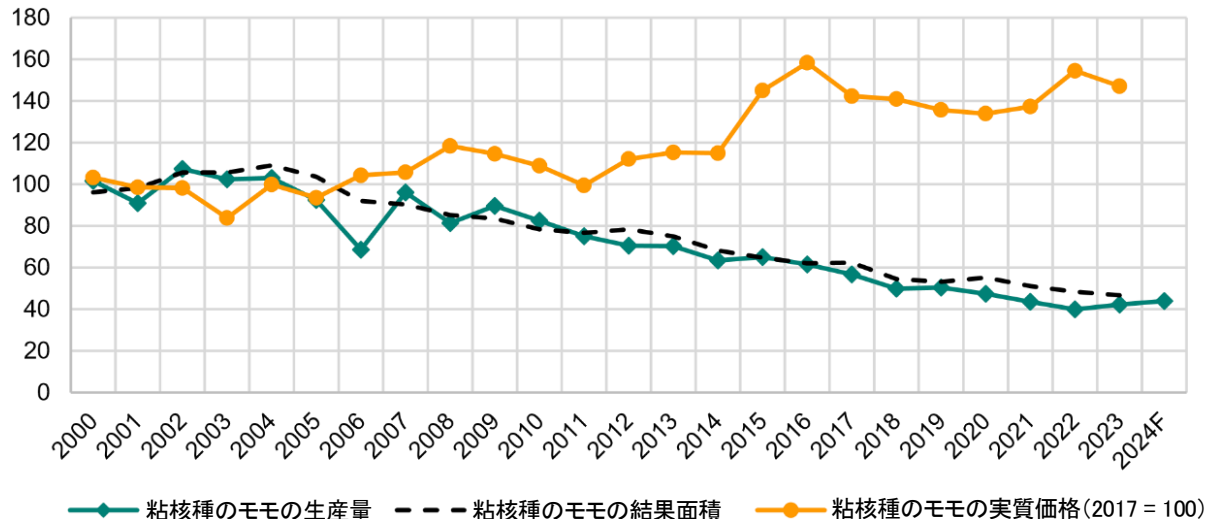
米国農務省農業統計局(NASS)の5月の作物生産見通しでは、2024年のカリフォルニア州のモモの予想生産量は51万トンで、2023年より6%多い。カリフォルニア州はモモの生産量が最も多い州で、モモの品種は離核種または粘核種に分類される。現時点での2024年の予測は、2023年と比較して粘核種(4%)、離核種(8%)ともに上向きである。平均して、離核種のモモの約70%が生鮮市場に出荷されるが、粘核種のモモはほぼ全量が加工用(主に缶詰と冷凍)に栽培されている。

2024年には、暖冬のため低温積算時間が過去50年間で2番目に少なかったにもかかわらず、カリフォルニア州のモモは増収が予想されている。生産者らは、着果量の多さと春の天候条件が全般的に良好なことを報告している。ただし、セントラルバレー地域では夏の高い気温が続いているため、果実の品質やサイズに悪影響を及ぼし、落果が増える可能性がある。NASSは、8月の作物生産レポートで、カリフォルニア州とその他7州について次のモモ生産予測を発表する。

**カリフォルニア州の粘核種:** 農業統計局(NASS)の5月の作物生産見通しでは、カリフォルニア州の粘核種のモモの予想生産量は23万トンである。これは2023年に比べれば4%(9千トン)多いが、2000~02年の平均生産量を56%下回っている(図1)。結果面積と生産量は過去20年間で減少した。同じ期間に、実質生産者価格(インフレ調整後)は約50%上昇したが、過去9年間(2015~23年)は概ね横ばいであった。2024年出荷シーズンの粘各種のモモの平均生産者価格は、この傾向が続くと予想される。業界の協同交渉団体であるカリフォルニア州缶詰用モモ協会は2024年3月に、加工業者と締結した2024年の基本価格契約は前年と同じ1トン当たり635ドルであると発表した。同協会によると、缶詰とプラスチック包装入りのモモ(フルーツカクテル等のミックスフルーツ製品を含む)は、主にカリフォルニア州の2つの加工会社によって製造されている。

図1 カリフォルニア州の粘核種のモモの生産量、栽培面積及び生産者価格(2000年以降)

2000-2002を100とする指数

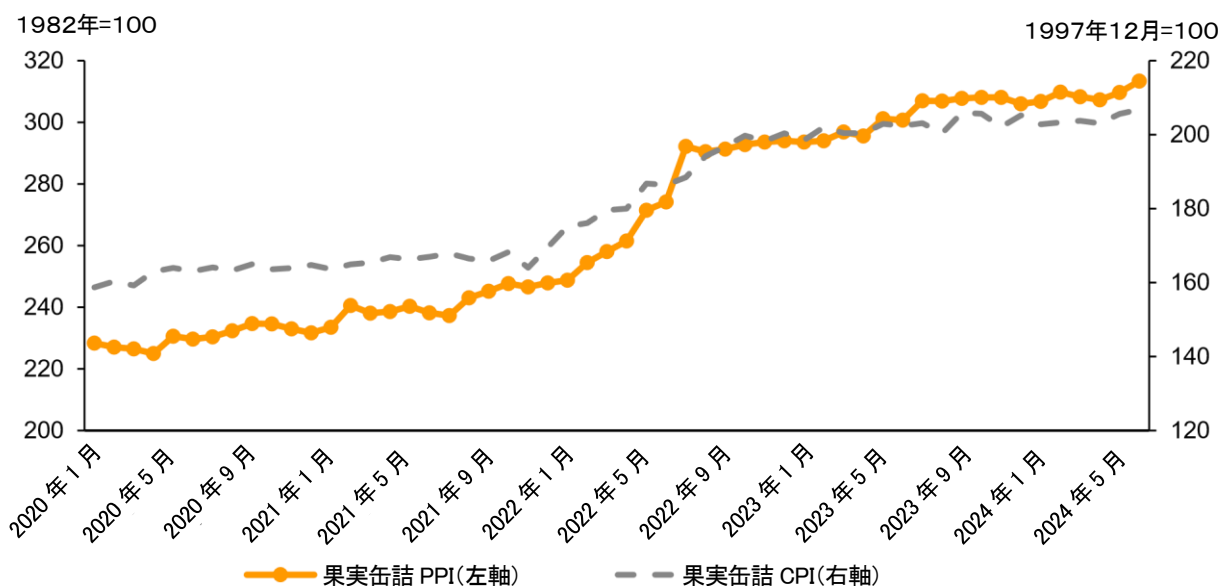


出典: 農務省農業統計局のデータ及び労働省労働統計局の国民総生産データ(2017年を100とする季節調整されていない年次別の暗黙の物価デフレーター)を用いて農務省経済調査局が作成

カリフォルニア州食品製造業者連盟が発行したレポートによると、カリフォルニア州の粘核種のモモの2024年の年初から7月第1週までの出荷量は4,958トンで、前年同期のほぼ2倍であった。これは、カリフォルニア州缶詰モモ協会の2024年の推計(地域別推計値の積み上げ)による今シーズンの全加工業者への供給予定数量全体(24万2,074トン)の2%に相当する。カリフォルニア州の粘核種のモモの出荷は、通常8月上旬までに中間点に達し、9月上旬まで続く。

**果実缶詰の価格:** 農務省経済調査局(ERS)は、米国のモモ加工品の年間生産量の約75%は缶詰であると推定している。果実缶詰の生産者物価指数(PPI)と消費者物価指数(CPI)は、2022年に急上昇した後、過去12カ月間は横ばいで推移している(図2)。より広範な食品価格全般と同様に、経済全体のインフレ圧力、サプライチェーンの問題、及び食品の卸売価格が前年に比べて緩和したことにより、2023年は果実缶詰の月次PPI及びCPIの上昇が鈍化した。2024年6月の果実缶詰(離乳食を除く)のPPIは、2年前の同月を14%上回ったが、前年同月比では4%増であった。同様に、果実缶詰の消費者価格は2年前の同月を11%上回ったが、前年同月比では平均して2%増であった。

図2 果実缶詰の生産者物価指数(PPI)と消費者物価指数(CPI) 2020-24



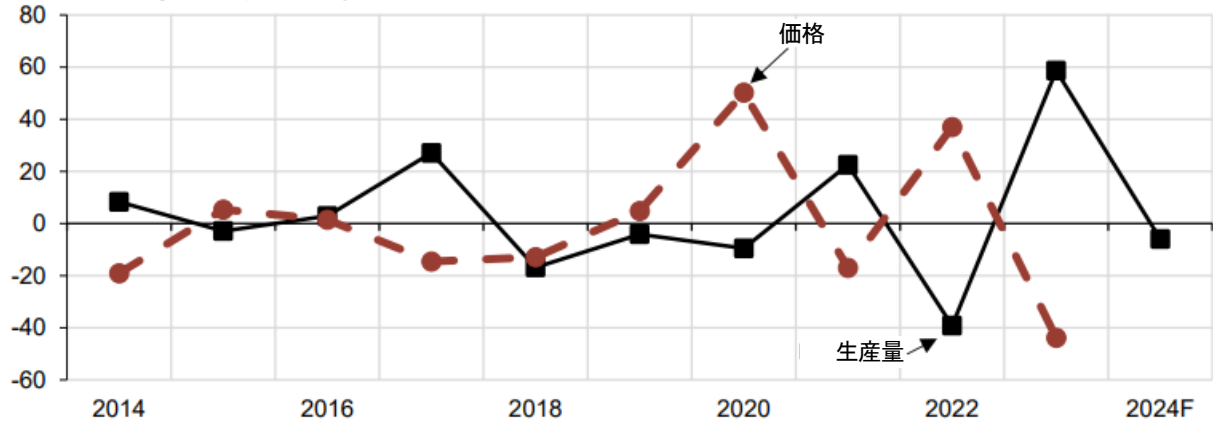
注: 果実缶詰PPI(シリーズ ID WPU024101)は離乳食を含まない。  
出典: 米国労働統計局のデータを使用して農務省経済調査局が作成

**生鮮市場向けモモの国内出荷量が昨年を上回る:** 農務省農業流通局(AMS)のマーケットニュースのデータによると、5月から7月中旬までの生鮮モモの出荷量は昨年より42%多い。南東部の出荷量が前年比で増加し、出荷価格(FOB)が下落していることは、2024年の同地域のモモの出荷量が、寒波の影響を受けた昨年よりも多いことを示している。農務省農業統計局は2024年6月末に、サウスカロライナ州のモモの収穫量の88%以上、ジョージア州の収穫量の99%が、良好ないしは優れた状態であると報告した。2024年7月21日までに、サウスカロライナ州とジョージア州のモモの収穫はほぼ(それぞれ80%及び84%)完了しており、これは昨年の収穫より早く、5年平均と同程度である。

### <甘果アウトウ> 西海岸の予想生産量が微減

農務省農業統計局(NASS)の6月の作物生産見通しでは、2024年の甘果アウトウの生産州上位3州(オレゴン州、ワシントン州、カリフォルニア州)の予想生産量は、前年比6%減となる33万3千トン(6億6,600万ポンド)であった(図3)。オレゴン州での生産量の増加(11%増)は、ワシントン州(11%減)とカリフォルニア州(2%減)での減少を補うには不十分であった。最大の産地で2024年の全米の予想生産量の52%を占めるワシントン州では、前年比2万3千トンの減少が予測される。農業統計局の2024年甘果アウトウ生産予測にはミシガン州も含まれており、調査対象4州の合計生産量の6%(2万2千トン)を占めている。

図3 米国の甘果アウトウ：上位3州<sup>1</sup>の合計生産量と生産者価格(生鮮、シーズン平均) 2014-24F  
前年度からの変化率(%)



F = 予測値

<sup>1</sup> 合計生産量に含まれる州は、カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州である。

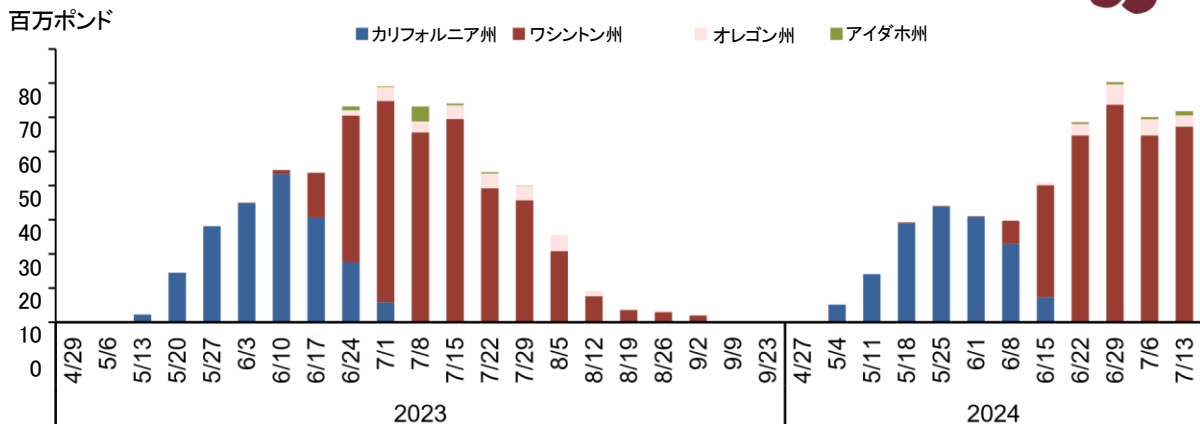
出典：農業統計局「非柑橘類果実及びナッツ類要覧(各年)」及び「作物生産見通し(2024年1月)」により経済調査局が作成。

**天候がワシントン州の甘果アウトウに影響:** ワシントン州では2024年1月に厳しい寒波を経験し、一部のサクランボ園で果樹が損傷したと報告されている。この寒波でより深刻な影響を受けた北部の郡では出荷シーズン終盤の出荷量が減少する可能性がある。

ワシントン州の2023年の甘果アウトウの出荷シーズンは、農務省の災害指定を受けた。2023年には、ワシントン州の甘果アウトウ生産者らは、収穫期間を短縮し、その結果として収穫できないサクランボが増える程の異常気象を経験した。ワシントン州の甘果アウトウの出荷シーズンの短縮と、カリフォルニア州産の終盤の収穫との重複により、非常に傷みややすいこの果実の生産者価格に下押し圧力がかかった。その結果、2023年のワシントン州産甘果アウトウの1トン当たりの平均生産者価格は、2022年に比べて50%低くなり、前年比で2009年以来最大の下落となった。

**2024年夏季の出荷状況:** 商業的な甘果アウトウ生産の大部分は西海岸に集中している。この地域の生鮮甘果アウトウの出荷は季節的で、通常、4月下旬のカリフォルニア州の出荷から始まり、北に移動し、9月にワシントン州で終わる。2024年には春の天候が良好であったため、カリフォルニア州中部からの生鮮甘果アウトウの出荷は昨年より2週間早く始まった(図4)。農務省農業流通局の出荷データによると、ワシントン州からの少量の早生品種の出荷が6月の第1週に始まった。4月下旬から7月中旬までの国内総出荷量は昨年より2%早く進んでおり、週平均の出荷価格(FOB)は昨シーズンよりは高いものの、2022年より低い傾向にある。

図4 ワシントン州は主に7月の甘果アウトウ産地



注：国内出荷量のみ。

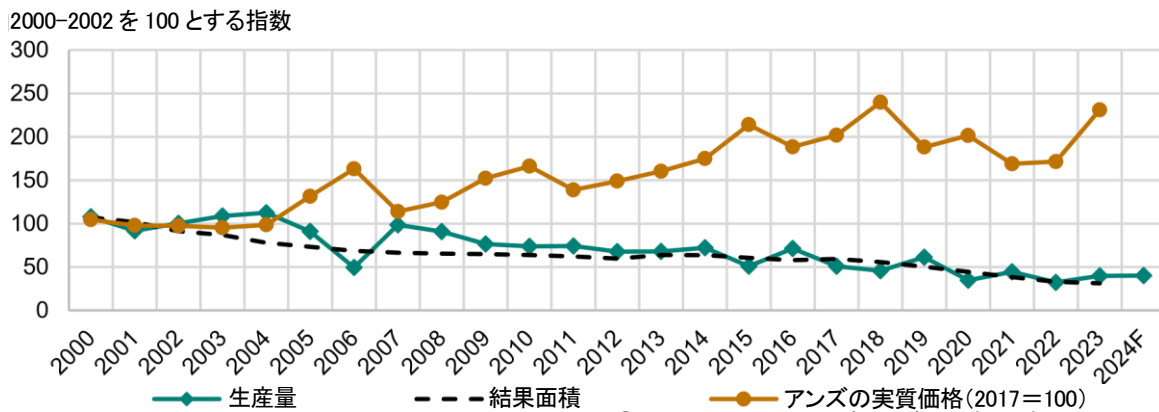
出典：農務省農業流通局(AMS)マーケットニュースのデータにより経済調査局が作成

**生鮮甘果アウトウの前年の輸出入の総括:** 2023年シーズンの増産に後押しされ、米国の生鮮甘果アウトウの輸出量は合計1億7,750万ポンドとなり、2019年以来の最大となった。輸出量の大部分(数量ベースで85%)は6月と7月に出荷された。有機栽培の甘果アウトウの輸出量は過去最高の1,150万ポンドに達し、これは生鮮甘果アウトウの総輸出額の6%を占めた。

生鮮甘果アウトウの輸入は、通常、国内供給量の10%未満である。国内の夏の最盛期以外に米国に供給される生鮮甘果アウトウは主にチリ産とアルゼンチン産である。2023年10月から2024年3月の間に、米国はチリから3,110万ポンド、アルゼンチンから510万ポンドの生鮮甘果アウトウを輸入し、その期間の総輸入量の85%を占めた。2023年のカナダからの輸入量は合計1,020万ポンドで、総量の79%が8月に輸入された。(以下、酸果アウトウについて省略)

<アンズ> 2024年の予想生産量は微増

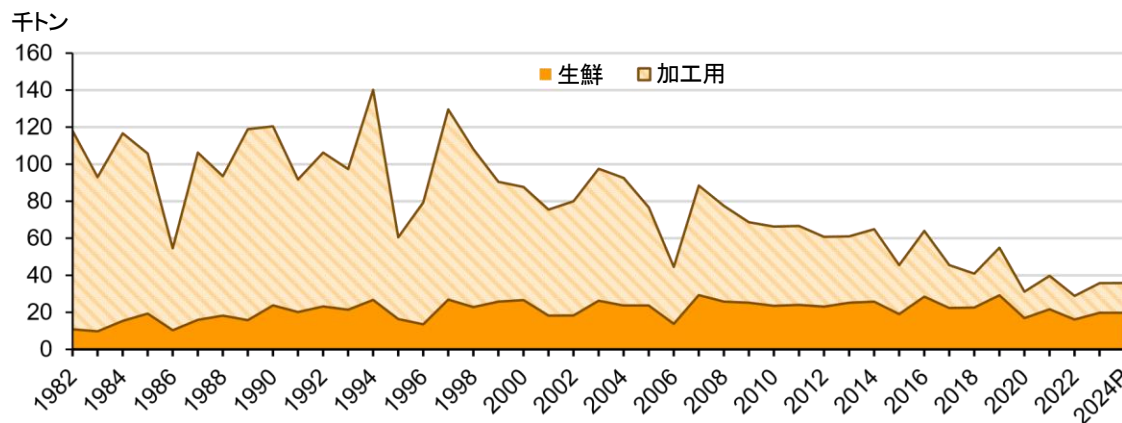
図7 米国のアンズの栽培面積及び生産者価格(2000年以降)



出典: 農務省農業統計局のデータ及び労働省労働統計局の国民総生産データ(2017年を100とする季節調整されていない年次別の暗黙の物価デフレーター)を用いて農務省経済調査局が作成

農務省農業統計局(NASS)の7月の作物生産見通しでは、2024年の米国のアンズ生産量を3万6千トンと予測しており、これは昨年より1%多いが、2000~02年の平均生産量の半分に満たない(図7)。カリフォルニア州のアンズ生産量は、米国の総収穫量の94%を占める3万4千トンと予測される。2024年のワシントン州のアンズ生産量は、昨年に比べて43%減の2千トンと予測され、この4年間で最低である。

図8 加工利用の割合が減少するにつれて米国のアンズ生産は減少傾向 1982-2024P



P = 暫定値

出典: 米国農務省農業統計局のデータを使用して経済調査局が作成

米国のアンズの結果面積と生産量は、国内のアンズ加工品の需要が減少したため、過去20年間で減少した。同じ期間に、価格の高い生鮮市場向けアンズの総出荷量に占める割合が大きくなったため、シーズン平均の生産者価格は上昇した(図8)。1980年代には、米国産アンズの約90%が缶詰、ドライフルーツ、または

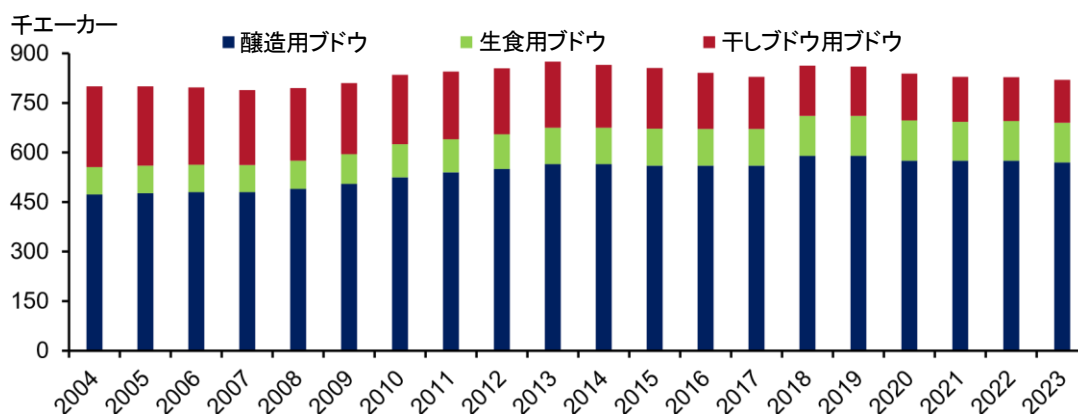


冷凍果実に加工されていた。過去3シーズン(2021~23年)では、アンズの年間平均収穫量の45%のみが加工利用された。これは、他の生鮮果実が年間を通じて入手しやすくなったこと、輸入されたアンズ加工品との競争の激化、代替作物の収益の増加、及びアンズ缶詰の消費量の減少傾向を反映している。一人当たりのアンズ缶詰の出荷量は、1980/81年度の1人当たり約1ポンド(製品重量換算)から、2023/24年度には0.1ポンド未満に減少した。

### <ブドウ> 2023年のカリフォルニア州の結果面積は減少

カリフォルニア州は主要なブドウ生産州であり、農業統計局の調査によれば米国の生産量の約94%を占めている。2023年のブドウの全栽培面積は1%減少し、醸造用ブドウ(1%減)と干しブドウ用のブドウ(2%減)は前年比で減少した。同州のブドウ栽培面積は、2023年までの直近5年では連続で減少したが、2004~06年の平均と比べると、醸造用と生食用の増加が干しブドウ用の減少を上回ったため、3%増加した(図9)。干しブドウ用がカリフォルニア州のブドウの栽培面積に占める割合は、2004~06年の30%から2023年には16%に減少した。2004~06年の平均と比較すると、2023年の醸造用ブドウの栽培面積は20%多く(約9万3千エーカー増)、生食用ブドウの栽培面積は45%多い(約3万7千エーカー増)。

図9 カリフォルニア州のブドウの結果面積 用途別 2004-2023



出典: 米国農務省農業統計局のデータを使用して経済調査局が作成

**品種別の醸造用ブドウ栽培面積:** 近年、醸造用ブドウの栽培面積は、カリフォルニア州のブドウ栽培面積の約70%を占めている。カリフォルニア州ブドウ栽培面積レポート2023年要約版によると、カリフォルニア州の2023年の醸造用ブドウの総栽培面積は61万エーカーと推定され、2022年に比べて5千エーカー減少した。栽培面積の大部分(93%に当たる57万エーカー)は結果する樹齢、すなわち通常は商業的にかなりの量のブドウの生産が期待できる樹齢(約3年以上)であった。

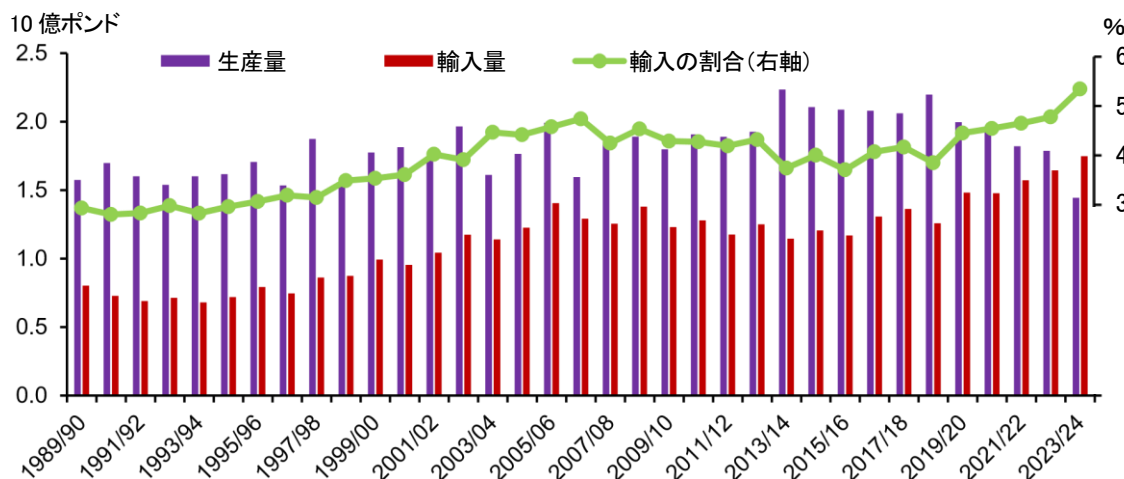
カリフォルニア州のシャルドネ品種の2023年の結果面積は8万5,879エーカーで、引き続き醸造用白ブドウの中で最多であり、これはその次に普及している3つの品種(ソーヴィニヨンブラン、フレンチコロナール、ピノグリ)の合計を上回っている。醸造用赤ブドウでは、カベルネソーヴィニオンが9万2,364エーカーで、引き続きカリフォルニア州のブドウ品種の中で最多であり、ピノワール(4万6,134エーカー)及びジンファンデル(3万7,601エーカー)がそれに続いた。醸造用ブドウの未結果面積のうち、上位2品種(シャルドネ 19%、カベルネソーヴィニオン 29%)がほぼ半分を占めている。

**2023年の生食用ブドウ栽培面積は減少:** 近年、カリフォルニア州の生食用ブドウの栽培面積はブドウ栽培面積のほぼ15%を占めている。生食用ブドウの2023年の栽培面積は12万5千エーカーと推定され、2022年から2千エーカー減少した。結果面積は12万エーカーで、総栽培面積の96%であった。カリフォルニア州で最も多い生食用品種はフレームシードレスで、1万2,139エーカーを占めた。この品種は、1970年代にカリフォルニア州フレズノ郡で開発された早生の種無し赤ブドウ品種である。それ以来、広く植えられ、よく知られたブドウ品種となった。フレームシードレスの栽培面積は、州の南半分の早生種に適した4つの郡(カーン、リバーサイド、テュレア及びフレズノの各郡)に集中している。2020~23年に州南部から出荷されたブドウの

平均4分の1はフレームシードレスであった。その他の人気のある生食用ブドウ品種は、中生の種無し赤ブドウ品種であるスカーレットロイヤル(6,417エーカー)と、秋に出回る晩生の種無し白ブドウ品種であるオータムキング(6,413エーカー)等である。

**2023/24年度の生鮮ブドウの輸入量は史上最高を記録し、初めて国内生産量を上回った:** 2023/24年度の生鮮ブドウの輸入量は17億5千万ポンドで、2022/23年度に記録した16億4千万ポンドを上回った。輸入量は、生鮮ブドウの総入荷量に占める割合がますます大きくなってきており、2020/21年度から2022/23年度にかけて、生食用ブドウの供給量の平均56.46\*%を占めた。輸入ブドウの割合は5年連続で上昇傾向にあり、2023/24年度には輸入量が初めて国内生産量を上回り、これまでで最高の63.55\*%に達した(図10)。(※訳注: 米国農務省のデータ(No110参照)に基づき、上の文の\*の2カ所及び下図の右軸を修正しました(右軸は概算。))

図10 生食用ブドウの生産量及び輸入量 1989/90-2023/24



出典: 農務省農業統計局及び商務省センサス局のデータに基づき経済調査局が作成

チリは2023/24年度に米国への生鮮ブドウの輸入でトップの座を取り戻した。チリは1989/90年度以降、毎年米国への生鮮ブドウ供給国としてトップであったが、2022/23年度にはペルーに抜かれた。チリの生鮮ブドウ輸出量は米国向けが最も多く、次いで中国向け、オランダ向けとなっている。2023/24年度のチリの生鮮ブドウ輸出量の62%が米国向けで、3年平均(2020/21~2022/23)の50%を上回った。

米国農務省海外農業局(FAS)の「チリの生鮮落葉果実半期報告書」によると、チリの生食用ブドウ栽培面積は10年以上にわたって減少している。古い品種の価格低迷と他の輸出国との競争により、小規模な生食用ブドウ輸出業者は市場から撤退するか、クルミ、サクランボ、柑橘類などのより収益性の高い品物に軸足を移すよう圧力をかけられている。ペルーでは、生食用ブドウの栽培面積と商業生産が増加し、米国向けに出荷される生鮮用ブドウの割合が増加している(2016~18年の平均32%から2021~23年の44%)。

**2024/25年度シーズンを見据えて:** カリフォルニア州では2024年の生食用ブドウの出荷シーズンが始まった。5月にカリフォルニア州南部のコーチェラバレー地区から始まり、真夏にはカリフォルニア州中部に移行する。農務省農業統計局の今シーズンの生産予測は、2024年8月に発表される。同省農業流通局の流通量データによると、カリフォルニア州南部地域のシーズン初期の出荷量は、7月中旬までに前年比で19%増加した。カリフォルニア州生食用ブドウ委員会の当初の推計では、カリフォルニア州の2024年の生産量は2020~22年の平均からはわずかに減少するが、ハリケーン・ヒラリーの影響を受けた2023年を上回るとされている。2023/24年度のカリフォルニア州の生鮮市場向けブドウの生産量は、主に生食用ブドウの収穫の最盛期にハリケーンが上陸したため、1987/88年度シーズン以来の低水準であった。雨が多すぎると、ブドウは裂果したり、落果したり、カビが発生したりする可能性がある。